プロジェクトＡ調査報告

ヤナギバルイラソウ

長谷川匡弘

タイトルを見て、「ああ、あれね」と思った方は、すごいです。ヤナギバルイラソウ…なんだか舌をかみそうな名前ですね。今回紹介するのは、今後広がりそうだけど、まだあまり大阪周辺には無いのではないか、という植物です。

ヤナギバルイラソウ（**図１：16ページ**）はキツネノマゴ科の植物で、メキシコ原産です。日本には1974年ごろ沖縄に持ち込まれたようです（植村ほか, 2015）。花は赤みがかかった紫色や薄い青色で、直径５㎝ほどにもなり、大きくて美しいので、園芸店などで売られていたり、花壇で栽培されていたりもします。線形の葉も特徴です。太刀掛・中村（2007）では、琉球、宮崎で逸出となっていますが、現在では、琉球、九州南部、四国南部など温暖な地域でかなり増加しています。そして最近、近畿地方でもちらほら見つかるようになってきました。

ヤナギバルイラソウは、大体６月ごろから開花が始まり、10月ごろまで次々と花を咲かせます。その後果実をつけ、それが成熟すると、パンとはじけて種子を飛ばします。自力で種子散布をするわけですが、これが問題で、観賞用に植えられていたものからその周辺に種子が飛び、どんどん新たな場所へ分布を広げていっているようです。またヤナギバルイラソウは、土壌がほとんどなく乾燥している路面間隙でも、かなり湿った場所でも、それほど場所を選ばず生育できるように思います。この強い性質も急速な分布の拡大を支えているのかもしれません。

大阪周辺では、まだ少ないので、見つけるのは難しいと思いますが、見つけた！という方は、ぜひ写真に撮影しておいて、見つけた場所も教えてください。都市部では近くの花壇などから、**図１：16ページ**のように道路沿いに広がっていることが多いと思います。

文献

太刀掛優・中村慎吾（編）2007. 改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会.

植村修二，清水矩宏，水田光雄，廣田伸七，森田弘彦，勝山輝男，池原直樹　2015. 増補改訂 日本帰化植物写真図鑑 第２巻. 全国農村教育協会.

＜**はせがわ　まさひろ**：博物館学芸員＞

図１：路面間隙で育つヤナギバルイラソウ。屋久島にて撮影。線状の葉に薄い紫の大きな花が特徴。**（本文は５ページ）**。